

Title	我国の開発途上国に対する農業投資について
Sub Title	
Author	青晴海(Ao, Harumi) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1984
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1984年度経営学 第318号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001984-0318

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 青 晴 海

主査 小 林 規 威

副査 和 田 充 夫

青 井 倫 一

所属ゼミナール 小 林 規 威

我国の開発途上国に対する民間農業投資について

本研究の目的は、我国民間企業が開発途上国に対する農業投資をより円滑に進める為はどうしたらよいのかについての糸口を求め、よって今後にその拡大を期待される農業開発投資に役立てたいと意図したところにある。本研究では、まず農林統計協会発表等の資料をサーベイすることにより、途上国農業開発の今日の問題点の抽出に努めた。第2に私は、今日の開発上の問題は過去の体験の連続と考え、戦前の南方への農業投資の実態を検討した。第3に私は、戦後における我国の対途上国農業投資のトレースに努めた。

以上、戦前・戦後の歴史と体験に関する文献サーベイと分析の結果を比較してみると、そこには成功や失敗について多くの普遍的な条件が見出された。それでは、現実に途上国に農業投資を行っている企業関係者は、投資の問題をどのように把握し、どのような対応を行っているのだろうか。私は最後に、この点について調査を行った。その結果、成功裡に農業投資を行う場合の留意点には、次の9点の存在が確認された。①農産品栽培の為の自然環境の適否が投資受入国のインフラ整備の充足度にも増して重要な成功要因となる。②現地での品種改良を積極的に行う必要がある。③現地農民の教育水準の向上、そして農学知識の改善に努力することが重要だ。④海外農業開発適性を持った人材の派遣に留意する。⑤少なくとも10年の単位で長期的に投資を考える。⑥日本の政府系の援助資金の有効な活用を計る。⑦現地で経験あるアドバイザーを利用する。⑧現地への貢献を重視する。⑨安定的な販路を確保する。以上であった。なお、取扱い商品の差（畜産か栽培作物か）、地域農民から集買活動を行っているか否かによって、対応や必要とされる援助の仕方も違ってくることにも注意する必要があることが認められた。